

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣



令和七年六月度 入賞句一覧

投句数 千百六十五句

特選

長町 誠司 選

今年もねりフォームしたよつばめさん

大垣市

大たに れいか(小二)

春の訪れとともに日本各地に渡ってくるつばめは、休む間もなく巣作りを始めます。私たち
の身近なところに巣を作ることから、春の鳥を題材にした俳句の数は、うぐいす(春告鳥とも
呼ばれます)と人気を二分します。この句、リフォームとありますから、同じ所に巣を作った
のですね。翌年も同じ巣に戻ってくる確率は十五パーセントという報告があるらしいのです
が、本当でしょうか。つばめのコスト削減に目を付けた作者の手柄が特選となりました。

あおむしは生まれてすぐに葉をかじる

大垣市

田村 いおり(小三)

「青虫」が非常に旺盛な食欲をもっていることに着目した作者。キャベツの葉などは、葉脈
を残して食べ進み、自分の体を通り抜ける穴を開けたら裏側へ回り込んでなお食べ進みま
す。体が大きくなるほど食べる量も増えるそうですから、農家の人は大変ですね。育ち盛りの
作者も、学校で学んだ知識や経験を糧に、さなぎが羽化するように「卒業」という形で大きく
羽ばたくことでしょう。

ゆうやけにせなかをむけてはしつてる

大垣市

まるやま ふみか(小四)

翌日は晴天になることが多い「夕焼」は夏の季語です。四季を通して見ることのできる「夕
焼」ですが、季節によつて趣が異なるため、語の上にそれぞれ別の季をつけ、季語として歳時記
に掲載されています。春ならば「春夕焼」というわけです。感覚的ですが、各季節による「夕
焼」の違いを使い分けることができれば俳句の幅が広がります。「せなかをむけて」の中七に
作者の強い意志を感じ取ることができます。

秀逸

せみがなくいい声だけどつかまえた

大垣市

柴田 颯佑(小二)

せんぷうきかぞくのかずがたりないな

大垣市

まつだ なな(小二)

ねこの子は夏でなくてもなまけてる

大垣市

久保田 琉伊(小五)

花火がドン空にひろがるまんげきよう

大垣市

古田 まき(小五)

向日葵がみんなそろつて花火見る

大垣市

大脇 緋夏(小五)

つばめの子大きな口でおやをよぶ

大垣市

すず木 さあや(小二)

はなふぶききれいだけれどかなしいな

大垣市

坂部 円香(小四)

こいのぼりゆめをかなえておおぞらへ

大垣市

中村 神之助(小二)

はるつてさいつもたいよう見はつてる

大垣市

わたなべ れん(小三)

えがおはねだれがちらすのたんぽぽだ

大垣市

和田 心晴(小四)

入選

小中学生の部

こいのぼり風に合わせておどつてる

大垣市

勝野 日向実(小三)

ながればしみんなのゆめをかなえてね

大垣市

星野 帆香(小三)

夏休みまだ明るいね何時かな

大垣市

花澤 美月(小四)

かわのおとはなびのようなおとがした

大垣市

久野 菜々美(小四)

カブトムシうしろのあしはゴキブリだ

大垣市

山本 悠翔(小五)

日の出だよぎらぎらひかるサングラス

大垣市

寸田 瑞季(小五)

夏の夜ホタルまい飛ぶくいせ川

大垣市

早崎 陽翔(小五)

夏の川二人のあみではさみうち

大垣市

松岡 慎之助(小五)

くらやみでほたるがつくるひかりの町

大垣市

早崎 想弥(小二)

カドケドのごほうびアイスおいしいな

大垣市

足立 修哉(小二)

芽がでたよチューリップは何色か

大垣市

小川 昊輝(小二)

あじさいが雨にうたれてほうせきだ

大垣市

小山 紗季(小二)

夏の空家ぞくで見上げたスターマイン

大垣市

矢木野 葵衣(小六)

青空でとんぼのリレー始まった

大垣市

大野 琴音(小五)

ミニトマトまっかにうれて照れている

大垣市

加代 杏奈(小六)

入学式いもうとがはいってきてたのしい

大垣市

北野 あやか(小三)

グラウンド走り続けて夏休み

大垣市

吉田 奈恩(小五)

はやくねな母の一言夏の月

大垣市

中村 朱里(小四)

油照り父から学ぶDIY

大垣市

市川 椋一(小六)

ともだちをふやしているとわかばかぜ

大垣市

増田 愛菜(小二)

選者吟

父の日の企て知りつ畑にゐる

せいじ

